

CSRマネジメント

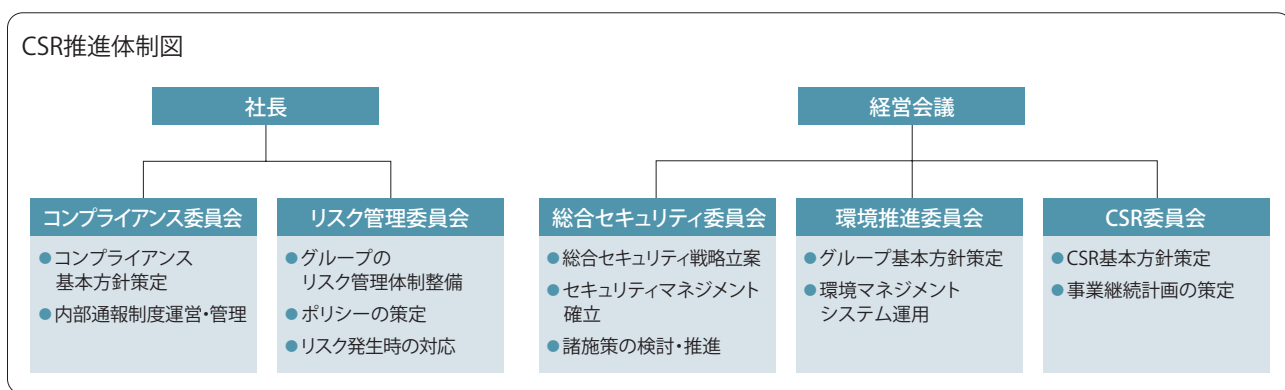
中長期的な視点に立った戦略・体制のもと、
グループ企業一体となったCSRマネジメントを継続的に進めています。

推進体制とマネジメント

経営の倫理性・透明性を高めるため、コーポレート・ガバナンスの維持・強化や法制度への対応に努めています。

CSR推進体制

業務執行の重要事項を協議・決定する機関として、代表取締役により構成される経営会議を設置し、迅速かつ効率的な意思決定を行っています。また、各種委員会を設置し、役割に応じた方針や施策の策定とその推進を行っています。



コーポレート・ガバナンスの実践

日本ユニシスグループは、経営環境の変化に対応した迅速な意思決定、責任の明確化、事業活動の透明性向上をめざし、経営管理機能と業務執行機能の分離や社外取締役、社外監査役の設置などを通じて、経営の質と透明性を高めるコーポレート・ガバナンスを実践しています。

WEB 日本ユニシスグループ企業行動憲章
<http://www.unisys.co.jp/csr/guideline.html>

WEB コーポレート・ガバナンス報告書
<http://www.unisys.co.jp/csr/pdf/governance-report.pdf>

コンプライアンスの強化

コンプライアンスに関する基本方針に基づき、組織体制や相談・報告のルートなどを体系化した「コンプライアンス基本規定」を制定しています。また、それらの運用・管理を通じて、グループ全体でのコンプライアンスの強化に取り組んでいます。

WEB コンプライアンス活動
<http://www.unisys.co.jp/csr/compliance.html>

J-SOX法への対応

J-SOX法対応についても、2006年から準備を開始し、「財務報告に係る内部統制」の文書化および評価の試行を行い、2008年3月までに準備を整えました。

日本ユニシスグループは「適正な財務報告」を企業の社会的責任と考え、J-SOX法が求める「適正な財務報告を行うための内部統制」についても、企業が自ら社会に対して果たすべき使命であると考えています。

このため、2008年1月には「適正な財務報告を行うための基本方針」を定め、グループ全体に周知しました。また、2008年2月にはグループ会社全員（契約社員などを含む）を対象に「適正な財務報告を行うための行動」についてのeラーニングを実施しています。



「適正な財務報告を行うための行動」についてのeラーニング